

## 関西電力への要請文の例を掲載します。参考にして下さい 例4

要請文 【例1】

2011年6月11日

関西電力株式会社社長 八木 誠 様

### **関西電力は、原発は安全だと説明・宣伝・解説の全てを反省し、謝罪して下さい。そして、脱原発へ転換して下さい**

一旦貴社の原発で事故が起きれば、若狭や福井県等の地元住民の社会と生活を破壊し、食物や土地・海洋の汚染を通じ、広範囲にいのちの犠牲を押しつけることとなります。

しかし、関西電力は依然原発運転を続けています。

そして、4月14日には「福島第一原発事故を踏まえた緊急安全対策に係る実施状況報告書」を経済産業大臣に報告しました。事故の問題を津波対策の問題に矮小化し、その対策をするとして原発運転を継続しようとしています。

しかし、関西電力自身が今真っ先に行うべきことは、「原発は安全だと説明・宣伝・解説の全てを反省し、謝罪します。」と、国民や若狭の住民に対して全面謝罪することではありませんか。そして、脱原発へと転換することを強く要請します。

「なまえ」

要請文 【例2】

2011年6月11日

関西電力株式会社社長 八木 誠 様

### **すべての原発の運転を停止し、耐震設計審査指針を抜本的に再改定し、活断層や地震動など耐震性評価をやり直して下さい**

東北地方太平洋地震のマグニチュード9.0は、東京電力の（耐震設計審査指針改定に基づくバックチェック）想定したプレート間地震の規模をはるかに超えるものでした。

福島第一原発原子炉建屋最地下階で観測された加速度も、東京電力による原発の基準地震動を超えるデータが得られています。

東京電力は「地震を起こさない断層」と評価した「湯ノ岳断層」が、4月11日に動いていたことが明らかになっています。

湯ノ岳断層は13万年前からの活動は見られないとして、今後地震を起こさないと判断していたのです。

しかし湯ノ岳断層が今回活動していたということは、国の耐震指針が重大な過ちを犯しており、誤っていたことを示しています。

国の安全審査について抜本的に見直さないとまた同じ過ちが起きます。

まず、すべての原発の運転を停止し、耐震設計審査指針を抜本的に再改定し、活断層や地震動など耐震性評価をやり直すべきだと考えます。

「なまえ」

要請文 【例 3】

2011年6月11日

関西電力株式会社社長 八木 誠 様

## 老劣化が進む美浜原発を閉鎖して下さい

美浜原発 1号は 1970 年の運転開始から 41 年を経過し、いわゆる老朽化した原発となっています。当初地元では 30 年間の運転で閉鎖するとする合意のもと、建設が容認されたという経緯があります。

2号(1972年運開) 3号(1976年運開)も老朽化が進み、両機とも重大事故(2号、1991年)と死傷事故(3号、2004年)さえ引き起こすという事態にまで陥ってしまいました。

原発の耐震性に重大な欠陥がいくつもある上、敦賀半島周辺や原発直下に断層がいくつも走っているような地点での原発稼働は危険そのものです。

以上のような理由から、貴社はいますぐ美浜原発を閉鎖すべきです。また、美浜 4号炉増設を断念すべきです。

「なまえ」

要請文 【例 4】

2011年6月11日

関西電力株式会社社長 八木 誠 様

## 関西電力が宣伝していた「止める、冷やす、閉じ込める」、「5重の壁」、「多重防護システム」は破綻しました。危険な原発は止めて下さい。

関西電力は、原発推進の宣伝で、「安全です。原発はペレット、被覆管、原子炉容器、格納容器、外部遮蔽壁の五重の壁になっている」(5重の壁)とか、「止める、冷やす、閉じ込めるという万全の対策がある」とか、「異常の発生、異常の拡大や事故の発展の防止、放射性物質の放出防止 多重防護システムに」などと、得意げに主張してきました。

原発の「安全性」を保証するものとして、「多重防護システム」、「5重の壁」、「止める、冷やす、閉じ込める」と大宣伝をしてきました、しかし、福島第一原発重大事故でこれらのすべてが破綻しました。

貴社は、これまで宣伝してきた安全宣伝の誤りを率直に認め、撤回し、謝罪広告を出すべきだと考えます。危険な原発の運転を止めて下さい。

「なまえ」